新　生

東北新生園入所者自治会

令和五年六月　十日印刷
令和五年六月二十日発行

新生第七十五巻　第二号

新　生

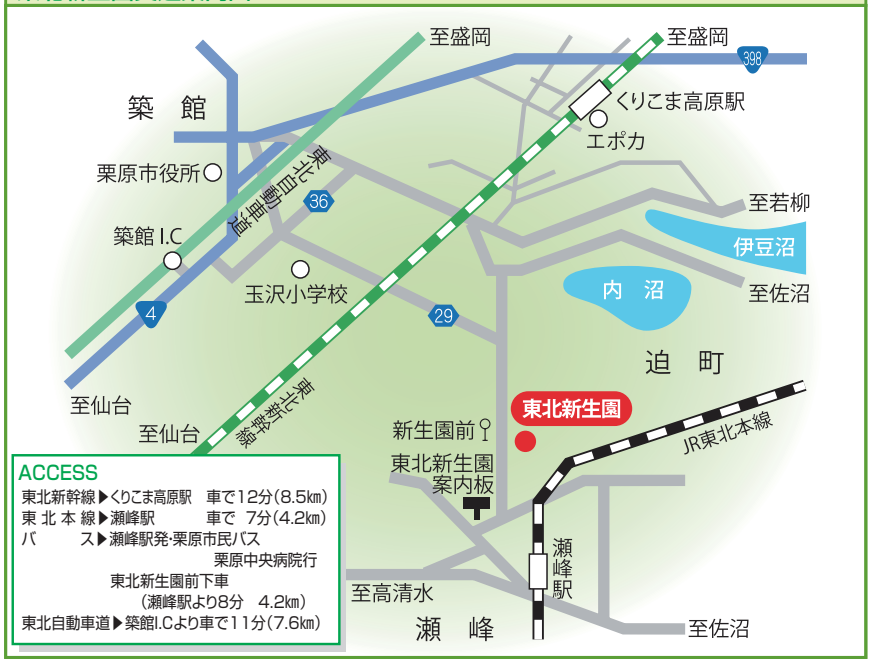
令和五年六月　十日印刷
令和五年六月二十日発行

第七十五巻第二号

東北新生園の概況

所　在　地	宮城県登米市迫町新田字上葉ノ木沢１番地
土地面積	３５１,２９１㎡
建物延面積	２２,７４０㎡
開　　園	昭和１４年１０月２７日
医療法承認病床	１８５床
標榜診療科	内科、外科、皮膚科、眼科、耳鼻いんこう科、歯科
現在入所者数	男９名　女２２名　計３１名
職員定員数	１３３名（令和５年４月１日現在）
園　　長	医学博士　　横　田　　隆

東北新生園交通案内図



園内日誌

令和五年　一月～三月

《一　月》

十七～二十日　正月行事（抽選会）

《三　月》

三十一日　転勤・退職者離任式

【謝寄贈図書欄】

令和五年　一月～三月（敬称略）

楓　岡山県　邑久光明園
多磨　東京都　多磨全生園
菊池野　熊本県　菊池恵楓園
青松香　川県　大島青松園
愛生　岡山県　長島愛生園
姶良野　鹿児島県　星塚敬愛園
日本ハンセン病学会雑誌　第九十一巻三号
東京都　日本ハンセン病学会事務局
詩集　いのちの芽　大江満雄編
東京都　ハンセン病資料館
みるく世向かてい　差別しない
大阪府　ハンセン病市民学会
ハンセン病家族訴訟　裁きへの社会学的関与
岡山県　株式会社　世織書房
新装版・復刻版　白書らい
東京都　全日本国立医療労働組合
ふれあい文芸（令和五年版）
東京都　公益財団法人日本財団

令和5年6月10日　印　刷
令和5年6月20日　発　行

発　　行　東北新生園楓会(自治会)
編　　集　楓　会　文　化　部
印　　刷　川内印刷株式会社

〒989－4601
宮城県登米市迫町新田字上葉ノ木沢一
東　北　新　生　園　電話 0228 (38) 2121㈹
発　行　所　東北新生園入所者自治会　電話 0228 (38) 3600

萌乃会二代目『萌翔』

観桜会行事のイベントに大衆舞踊の萌乃会の皆さんがいらしてくれました。
たくさんの入所者様の参加でとても賑わいました。

新生・第七十五巻第二号……目　次

表紙…「春うらら・千本桜」……撮影　元事務長　加藤久弥

転入のご挨拶……事務長…口野広志…(2)
ご挨拶……主任臨床検査技師…柳沢和律…(6)
転勤のご挨拶……栄養班長…佐藤加奈子…(8)
転勤のご挨拶……栄養係長…柴田元…(12)
随筆「金田一温泉の旅」……斎藤照雄…(14)
栄養だより……栄養班…(16)

═新生文芸═

詩……選者…佐々木洋一…(17)
短歌……選者…皆川二郎…(19)
俳句……選者…山田桃晃…(21)
川柳……選者…雫石隆子…(23)
観察日記「燕が飛び立つ日①」……遊佐三枝子…(25)
転勤のご挨拶……副総看護師長…三城則子…(27)
着任のご挨拶……看護師長…手塚泰子…(29)
着任のご挨拶……看護師長…森美保…(32)
着任のご挨拶……一般職員…鈴木智也…(34)
四コマ漫画「達人①」「達人②・③」……太田凛…(38)
園内日誌・謝寄贈図書

転入のご挨拶

事務長　口野広志

国立療養所東北新生園の皆様、初めまして。令和五年四月一日付人事異動で国立病院機構盛岡医療センターから参りました口野広志（くちのひろし）と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

少々長くなるかもしれませんが、自己紹介させていただきます。

出身は北海道で、札幌生まれ札幌育ちのピチピチの十八歳です（実は、プラス四十歳らしく、食うのが大好きなのでズボンのウエスト部分がはち切れそうなくらいピチピチしています）。さて、この口野（くちの）という名字、珍しいですよね？恐らく北海道では私の家族だけだと思います。もう五十年以上もこの名字と付き合っていますので今でこそ慣れていますが、子供の頃は嫌で嫌で・・・。特に小・中・高の学校で出欠をとる時など、自分の名前が呼ばれるまで「ちゃんと呼ばれるだろうか」と不安に駆られ毎回心臓がドキドキしていたものです。また、公共機関などで名前を呼ばれる時は決まって、「野口さん」「只野さん」「こうのさん」「くにのさん」ってな感じで、その度に「くちのですけど何か？」と言ってきたものです。

名字の由来について詳細は分かりませんが、平安時代後期から主に土地や場所を名字として使われるようになったらしく、今ではインターネットで名字のルーツを調べることが出来るみたいです。因みに某サイトで検索したところ口野姓の全国順位は一三二八八位（1328位）、全国人数はおよそ四五〇人で意外にも関西圏に多く分布していると記載がありました。私の

父親は武田信玄のお膝元の甲斐国、「山があっても山梨県」の出身なので本家に由来を聞いたところ、静岡県沼津市に「口野」という土地があり、その土地に居た人たち（先祖でしょうか）が富士川を上って山梨県に入り「口野」という姓を名乗ったのではないかということでした。冒頭にも書きましたが、自分は札幌生まれ札幌育ちなので故郷は札幌市になりますが、山梨県には幼少の頃に二度しか行ったことがないので、今後改めてルーツ探訪するのもいいのではないかと思っております。

家族構成は、かみさん（妻）一人、子供四人（男三人、女一人）で、子供らはみんな成人しており、てんでバラバラとなっております。これまた名前の話になりますが、かみさんの名前は寝ているときに見るものなんですが、普通には読めない。子供らの名前はかみさんと相談して四人とも自然にちなんだ名前をつけてまして、昔はよく子供らの名前を聞かれ「はあ～、ほう～、へえ～」とリアクションがあり、最後に「お父さんは？」と聞かれ「ヒロシです・・・」と答えると何故かそこで笑われるということもありました。

私は高校卒業後、国立療養所西札幌病院（現国立病院機構北海道医療センター）で面接を受けた際に面接官から最後に「野球やるの？」と聞かれ、「やりますよ！子供の頃からの遊びは野球でしたから」と答えましたらウソかホントか採用されまして、それ以降、国立療養所八雲病院、国立療養所北海道第一病院（平成十五年七月移譲）、国立函館病院、北海道厚生局、国立病院機構札幌南病院（平成二十二年三月統合）、国立病院機構八雲病院（令和二年九月機能移転）、国立病院機構北海道がんセンター、国立病院機構西多賀病院、国立病院機構青森病院、国立病院機構函館病院、国立病院機構旭川医療センター、国立病院機構盛岡医療センターを経て、この度、国立療

養所東北新生園で十四施設目となります。そのうち東北勤務としては四施設目となり、単身赴任は平成二十三年四月の西多賀病院からなので、東北新生園で十二年目に突入ということになります。事務職は基本的に係長から転勤が始まります。私が若い頃から周りでよく言われていた転勤族あるあるですが、「家を建てた」「マンション購入した」となると転勤になるという・・・。平成二十二年十一月にウン千万円というローンを組んでマンション購入、ローンの事は考えずウハウハ喜んで年明けを迎えた途端、西多賀への異動内示が出まして「オーマイガッ！」私も漏れなく見事に当選した訳で、五ヶ月しか自分の家に住んでおりません。東北に転勤してからは飛行機代もバカになりませんので、夏期休暇と年末年始の年二回しか帰省しておらず、毎月毎月、せっせせっせとローンを返済するだけのマシーンと化しております。とは言いつつも、転勤自体は苦ではなく、転勤するからこそ今まで住んでいない土地に住むことが出来ますし、その土地の行事や文化に触れることはもちろんの事、新しい職場でのみなさんとの出会いもあります。

　趣味につきましては、特段、「これっ！」といったものはありませんが、スポーツ万能（のつもり／ええっ！）、食べること（ラーメンなど旨いもの巡り）、散歩でしょうか。昨年から散歩の延長で初心者ですが山登りを始めました。無計画・無防備の単独登山で、毎回体力の無さを痛感し泣きそうになりながら登りますが（下山後三日間くらいは筋肉痛で歩くのもままならないです）、それでも山頂に着いたときの達成感と山頂メシの旨さが忘れられず、今年もアタックする山を探して登ろうと思っております。そうそう、昨年の秋、登り納めに姫神山に登った時に仙人と遭遇したんです。本当に居るんですね。山頂からやっ

との思いで下山している時に、軽快にしかも軽装で登ってくる初老の方とすれ違ったと思いきや、暫くしたらピョンピョン跳ねて降りてくるではないですか！思わず「さっきすれ違いましたよね？山頂まで行って、もう降りて来たんですか？」と聞いてしまいました。その初老の方は正に仙人と呼ばれいる方で、八十歳代で毎日姫神山に登っており八〇〇〇回を目指しているとのことでした。

　ああ、申し訳ございません、長々となってしまいました。

　こんな私ですが、入所者の皆様をはじめ、一日も早く東北新生園に貢献出来るよう頑張って行きたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

ご挨拶

主任臨床検査技師　柳沢和律

この度、独立行政法人国立病院機構花巻病院から赴任して参りました、柳沢和律（やなぎさわかずのり）と申します。どうぞ宜しくお願いいたします。

こちらに赴任するまでは、独立行政法人国立病院機構青森病院、独立行政法人国立病院機構仙台医療センター、独立行政法人国立病院機構花巻病院で働いて参りました。

出身は岩手県紫波郡紫波町です。盛岡の南側に位置し東西に細長く、奥羽山脈と北上山地に囲まれた盆地で、夏は暑く冬は寒さが厳しい土地柄となっており、朝晩の気温差もかなりあり、稲作の他、葡萄や西洋なし、りんごなど様々な果物の産地となっております。

私は紫波町の中でも稲作が盛んな地区である「水分（みずわけ）」で生まれ育ちました。近くにはご存じのない方が多いとは思いますが、志和稲荷神社、山王海ダムがあります。

志和稲荷神社は宇迦之御魂大神（うがのみたまのおおかみ）、猿田彦大神（さるたひこのおおかみ）、大宮能売大神（おおみやのめのおおかみ）と三柱の貴神を奉斎している神社です。

山王海ダムは昭和二十七年に建設されました。稲作面積が多く慢性的な水不足だったようで、自分の地区に水を引くため死者が出るほどの「水争い」が起こっており、その事から「水分」という地域名ができました。

当時の藩は、この水不足を解消するためダムが建設されました。建設当時は「東洋一のアース型ダム」とよばれていたそうです。

このように、あまりメジャーではありませんが、お近くを通った際は是非寄って見ていただければ幸いです。

趣味は車関連全般とドラムをしています。

車に関しましては、基本整備はもちろんの事コロナ前は走行会やホンダの衝突実験施設に見学に行ったり、冬は住友ゴム（横浜タイヤ）の名寄テスト施設に発売前のスタッドレスの試乗品評会に招待していただいています。新しい実験施設が二年前にできましたので、行ける日を楽しみにしています。冬タイヤの話の流れで言えば過去に面白い実験をしたことがあります。十二社ほどの全世界メーカーのスタッドレスを北海道・東北地方で試してみた事もありますが、私はやっぱりブリザックが大好きで長年愛用しています。

ドラムは、東京に上京してから始めて、今現在に至っております。学生時代には、スタジオミュージシャンとしてバイトをし生活の足しにしていました。今では特段活動はしておりませんが、自宅の一角をスタジオ化して週末に運動がてら演奏したりはしております。

趣味が合う方がいらっしゃいましたら気軽に声をかけていただけると幸いです。

私はハンセン病療養所での勤務は初めてであり、ご不便やご心配をお掛けすることが多々あると思いますが、正確で迅速な検査結果をもって、入所者一人一人の力添えに少しでもなれればという思いで働かせていただきますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

転勤のご挨拶

栄養班長　佐　藤　加奈子

この度、岩手県一関市にあります国立病院機構岩手病院から転勤して参りました、栄養班長の佐藤加奈子と申します。どうぞよろしくお願い致します。

私の出身地は宮城県岩沼市で、幼少期に仙台市に移り住みました。仙台市内の大学を卒業後、市内の産婦人科個人病院の管理栄養士を皮切りに、国立療養所西多賀病院（現仙台西多賀病院）、郡山病院、福島病院、宮城病院、釜石病院、岩手病院に勤務し、栄養士として今回八つ目の施設を経験する機会をいただきました。

出身地の岩沼市は宮城県南部の沿岸に位置する町で「仙台空港」や「仙台東部道路」など東北の交通の要所として知られています。江戸時代には旧街道の宿場町として栄え、俳人・松尾芭蕉も「奥の細道」の道中で街を訪ねています。そのような岩沼市で思い出深い名所の一つとして「金蛇水神社」があります。金蛇水神社の御神体は蛇の姿をしており、平安時代に京都三条の刀匠・小鍛冶宗近が奉納したものと伝えられています。御祭神は「金蛇大神」こと「水早女命（みづはのめ）」で、古くからこの地に祀られている、日本の代表的な水神で「財力や生命力、生業の守護神」として崇められています。境内には、素手でなでたり、財布で石に触れると金運がアップすると言うジンクスがある、蛇が浮かんで見える「蛇石」が多数並んでいます。また同神社の手前に祀られている「金蛇弁財天」は厚く信仰されており、学業成就・技芸上達・福徳円満などの御利益があるそうです。そのような金蛇水神社ですが、花の好きな母の為に、幼少期より良く家族で境内の花を見に訪れていました。見どころは樹齢三〇〇年を誇る一本株から九本の枝が分かれた藤棚の「九龍の藤」です。素晴らしい藤色の花を咲かせます。また、境内には東北有数の牡丹園もあり、一〇〇種一〇〇〇株の見事な牡丹が咲き誇ります。見頃は藤・牡丹が五月初旬から中旬で境内が花々に包まれ「花まつり」が開催されます。七月には「七夕あじさい祭り」が開催されます。最近では、きれいな藤の「御朱印」や「宵詣ライトアップ」と称される、花と境内の織り成す幻想的な世界の催しなどが人気のようです。金蛇様にご興味がある方やお花が好きな方、機会がありましたらどうぞ足をお運びください。

また岩沼市のもう一つの名所は、日本三大稲荷のひとつ「竹駒神社」です。地元では「竹駒さん」の愛称で親しまれています。平安時代の承知九年（西暦八四二年）に「小倉百人一首」にも名を連ねる、朝廷の太宰間の参議だった小野篁（おののたかむら）が国府多賀城に陸奥守として着任した際に、奥州鎮護の神として創建したのが起源とされています。御祭神は、倉稲魂神（うかのみたまのかみ）、保食神（うけもちのかみ）、稚産霊神（わくむすびのかみ）です。この三柱の御祭神を称し「竹駒稲荷大神」と呼ばれ、人間生活の根源である「衣食住の神様」として崇敬を集めています。全国三万社以上あると言われている稲荷社のなかで、日本三大稲荷に数えられており、多くの参拝客で賑わう神社です。鳥居をくぐるとまず初めに「随身門」、次に「向唐門」、「社殿」が見えてきます。向唐門には「竹駒神社」と書かれた赤い大提灯があり、江戸時代後期天保十三年に建てられ、平成三十一年に宮城県の文化財に指定されました。衣食住の神様であり、古来より産

業開発、五穀豊穣、商売繁盛、海上安全を願う人々からの信仰を集めています。このような竹駒神社の近くに住んでいた我が家では初詣、どんと祭、お宮参り、七五三など折に触れお世話になりました。初詣やどんと祭で飲んだ甘酒が美味しかったことや、お参りの時に一緒に写った祖母の笑顔が思い出されます。荘厳な竹駒神社もご興味ある方に是非一度訪れていただきたい場所のひとつです。

今年二月、八つ目の勤務地として東北新生園に配属が決まった際、転勤前に初めて家族で当園を訪れました。その時、敷地の広さ、綺麗さ、環境の良さに驚きました。真っ青な空の下、幼稚園児と小学生の二人の娘も目を見張り、入り口の噴水や公園の鯉を眺め、遊具で遊び、丘を駆け上り、敷地を一周させていただき、小一時間も滞在してしまいました。

勤務が始まってからも、通勤時の山々や田園が広がる景色の雄大さ、第二メープル棟から外に出た際の空の青さに自然を感じ、広大な敷地の中で福祉係の方から教えを請い、山の恵みである山菜を収穫し、給食の一品として入所者様に提供し食べていただけたのは大きな喜びでした。

また、自治会が「楓会」、敷地内の建物は「メープル」と名付けられ訪問前はなぜだろうと思っておりましたが、敷地内を子供たちと散策した際、正面玄関の前にある貞明皇后殿下より賜った楓の木が由来であると分かりました。長女が「楓」という名でありますので、そう言ったことからもご縁を感じております。

現在、四月時点ではコロナ禍ということもあり、栄養士の入所者様への頻回な訪問はなかなか難しく、お会いできている方は少ないのですが、新型コロナ感染症が五類に移行しても感染対策をきちんと行い、入所者様のご意見をしっかり伺いながら美味しい給食の提供を行ってまいりたいと思います。また、

「しんせい茶房」を中心とした行事にも勢力的に参加し、関係部署と協力しながら、入所者様に喜んでいただける行事とできるよう、また新しい取り組みも行っていければ良いと考えています。

今年度から栄養班の栄養士は二名から三名体制となりました。素敵な行事カードを作ってくれる事務補助員一名と十一名の調理・洗浄スタッフと共に、入所者様に満足していただける、「安全・安心で、とびきり美味しい食事の提供を目指し頑張りたいと思います！」どうぞよろしくお願い致します。

転勤のご挨拶

栄養係長　柴　田　　元

このたび国立病院機構米沢病院から栄養班栄養係長で参りました柴田元といいます。どうぞよろしくお願いします。東北新生園は今回二回目になります。前回は平成三十年四月から令和二年三月の二年間お世話になりました。三年ぶりに戻ってくることになりました。栄養班のスタッフは大きく変わってなく、とても懐かしく思いました。この三年間は新型コロナによる行動制限など今までの生活様式がガラッと変わった年だったと思います。また私生活にも変化があり、三年前に腸捻転を発祥し緊急手術になりました。退院後はトイレに行く回数が多くなるなど体調が優れずに苦労しましたが、今では完全復活とまではいきませんが以前と近い生活が出来るまでに改善しました。そんな生活をしている間に、第一子となる男の子が生まれました。出産で妻が入院した時も新型コロナで面会も出来ない状況でしたが、生まれた直後のみ会うことの許可がおりました。仕事が終わり米沢から仙台の帰宅途中に妻から「生まれた」と連絡が入り直ぐ病院に向かいました。病院に駆けつけても直ぐに会えず、抗原検査で陰性が確認されるまでは病室に入れませんでしたが、面会時間にギリギリ間に合い、無事第一子を抱っこすることが出来ました。初めて抱っこした第一印象は壊れそうなぐらい小さいと記憶しています。妻が退院後は育児休暇を取得し子育てを一緒に頑張りました。最初はオムツ交換すらまともに出来ずに苦労しましたが、我が子の可愛い寝顔や仕草に癒やされながら育児に奮闘しました。育児休暇取得後は仕事と育児の両立のため、米沢の職場まで毎日通勤する生活を送りました。米沢の冬はとても厳しく道路の周りには雪の壁ができるほど大量の雪が積もるので、車の運転はとても神経を使いました。そんな生活を送っていたら、あっという間に我が子がまもなく二歳になります。あんなに小さかった我が子も今では走り回り「パパ」と話すほどに成長しました。子の変化に驚く毎日です。私自身も食事作りから洗濯、お風呂、オムツ交換、子の寝かしつけなど大まかなことは出来るようになり、父親としては未熟ですが我が子と一緒に私も成長していると思いたいです。

そんな三年間で父親に成長し久しぶりに戻ってきた私ですが、入所者の皆様が健康で充実した生活が出来るように食事面でのサポートから「しんせい茶房」等のイベント実施など幅広く取り組んでいきたいと思います。どうぞ、よろしくお願いします。

随筆

「金田一温泉の旅」

斎藤照雄

私は岩手県にある金田一温泉の旅に友人から誘われ喜んで参加をした。

築館インターから一路東北道盛岡を通過。青森県八戸市へ向かった。八戸市ではスルメ、姫鱈、寒海魚、北海道の湖で捕れたという干物などを購入した。そこから宿泊先となる金田一温泉へと向かった。

温泉へ到着し、フロントで手続きを済ませ、まず土産を購入した。そしてロッカーへ荷物を預け、我々は温泉へつかることにした。湯に入り疲れを癒した後、友人とビールで乾杯をし夕食を楽しんだ。みんなとくつろぎ楽しんだのち二階へ上がり四人一緒の部屋で休んだ。

翌朝五時起床。六時に朝食。それから出発の準備をし、お世話になったスタッフへ礼を言い金田一温泉を後にした。

後から耳にした話だが、金田一温泉には座敷童が出るという噂の旅館があるそうだ。私たちの宿泊した旅館には座敷童は出なかった。

そこから宮古へ向かう。荒波に突き出た断崖に柵が施されていた。友らはそこから荒波を眺めていた。私は高所恐怖症もあり、首もたげ恐ろしくなり安全な東屋で荒波を眺めていた。その後、食堂へ向かい松茸づくしの昼食をいただいた。その当時、小指ほどの松茸が市場で三万円という値段で報じられたこともあったが、そこでは三千七百円という値段で楽しむことができた。味も格別。店の主人によると近くの赤松の山で採れるという。お代を支払い車で西へ向かった。

右手には鍾乳洞の入り口、左手の坂を登れば早坂高原が位置しており、坂を下れば岩洞湖があった。車を走らせ盛岡を通過。我々は築館インターを降り帰園の途に着いた。友人と別れ別れに寮へと向かったところで金田一温泉の旅が終わった。

栄養だより

～新生園で採れた山菜紹介～

こごみ

たけのこ

こしあぶら

ふきのとう

新生園内には沢山の山菜があります。こごみは「ごま和え」、たけのこは「煮物」、ふきのとうやこしあぶらは「天ぷら」にと春の味覚を給食にて提供させていただきました。食事と一緒にカードもお付けしました。

新生文芸

詩

佐々木　洋　一選

◇入　選◇

《心の兵器》

斎藤　照雄

心の兵器があればよい
私が入院し三年目
猛烈なハ氏嵐が吹き荒れた
メスの豪雨も
嫌というほど
襲いかかってきた

私は微力ながらも
心の兵器を持って
この場を耐え抜いた
このハ氏嵐は
メスの豪雨の為なのか
夥しく私をいじめる
下半身の冷え性では十年近く
下痢では三ヶ月近く戦った
ドクターの手を借りたが
らちがあかず困っていた
そんなとき
盲人の方ふたりに
「万病に効くと伝わる
蜂蜜を飲んでみないか」
と勧めを受けた
溺れる者藁をも掴む心境で
私は試すことにした
瀬峰にある業者から
蜂蜜一升購入してもらった

どのくらいの量を
飲んだらよいか尋ねると
コップ三分目程飲むよう言われ
三ヶ月飲み続けた
それまで
白金カイロを二十四時間
抱いていた冷え症も
一晩で良くなった
酷かった下痢も
一週間に一度になった
さらに二ヶ月後
カイロも必要なくなり
下痢も止まった
勧めてくれた盲人へ
「あの薬、効いたなぁ」
と話すと
「そうか。効いたか。
買ってきた甲斐があったな。」
と語った
この日のために

こつこつ磨いてきた
心の兵器と相まって
盲人たちと
手を取り合って喜んだ
そうしてこの忌々しい戦いに
ピリオドを打った

【選　評】

《心の兵器》　斎藤照雄

心の強い闘いを「心の兵器」と表現した比喩に驚きました。通常であれば、兵器という比喩に違和感を持つのですが、この作品では許容できるように思います。

助言に添って蜂蜜を飲み続けた結果、ひどい症状が改善。実体験による説得力のある作品となりました。ピリオドの終わり方もうまい。

芽生さんの「四季の箱庭」は、すばらしい環境の新生園との出会い。溌溂とした気持ちが伝わってきます。

短歌

皆川二郎選

◇入　選◇

毎朝のなじみのキジの赤き顔春の芽吹きに鮮やかに映ゆ　柏木　梅

【選　評】　毎朝現れて馴染みとなっているキジの赤き顔が、春の芽吹きの穏やかな日和の中でひときわ鮮やかに目立って見える。毎朝の馴染みのキジという上の句の表現と、赤き顔春の芽吹きの下の句と照応して、少しのユーモアの中にも情景の見える一首となっている。

花見後に拾い集めた花びらを幼き我が子家でも愛でる　菊水

【選　評】　桜の花見が終わった後に、拾い集めた花びらを、幼い我が子が持ち帰って、家の中でも愛でて遊んでいる。純粋な幼い子供の姿と、楽しかったであろう花見の様子までが想像される一首である。

爆ぜる音に松の木見ればからみつく藤莢ねじれ種はね飛ばす　柏木　梅

【選　評】　爆ぜる音のする松の木を見ると、絡みついている藤の莢がねじれて種をはね飛ばしている様子が見えたというものであり、その情景を確認することができた作者の観察に感心させられた。今、咲き誇っている藤の花を見ながら自然の力を改めて感じた一首である。

◇佳　作◇

山中に隠れし気配梅の香をたどりし見ればの家の跡あり　柏木　梅

結婚し六十五年亡き夫を思いば寂し喧嘩もできず

俳句

山田桃晃選

◇入　選◇

空青く残雪の峰際立たせ　小林喫茶

【選　評】　よく晴れた遠嶺にかがやく残雪、どんな形をしているのだろう。取りあえず馬の形、栗駒山が見えてくるようだ。その峰の輝きがなんとも云えない勇まじい尊さが青空そのものでもあろう。

眼裏に故郷の桜咲かせおり　斎藤照雄

【選　評】　故郷は何歳になっても故郷はふるさと、ことに桜の季節はあの事、この事の思い出がある。一番の思い出を眼裏に咲かせる桜、どんな桜だったんだろう下五句の咲かせおりが優しい。

君想い桜吹雪にとめる足　万両

【選　評】　なんとなく硬いような桜吹雪、あの人を想いながら歩む姿が見えて来る。風に乗って散る様は、初恋の彩りかも知れない。淡い色の桜よ君よありがとう、楽しいですね。

◇佳　作◇

水鏡桜の香り風の色
隔てなく我と君へと降る桜
ウグイスの鳴き声響く新生園
花芯散るいくらあっても足りぬ紙

斎藤照雄

ふるさとの春は祭りの太鼓から
今頃はふるさと新茶のできる頃
お茶小屋で父さん働き一日終え
耳底で鳴る故郷の盆太鼓

小林喫茶

停車場に門出祝うか花吹雪
餞別の包みを濡らす春時雨
ヨーイドン背中で弾むランドセル

芽生

栗駒の眩しき春の空の青
晩春の光りこぼるる旅路かな

万両

川柳

雫石隆子選

◇入　選◇

《天位》
子ら五人育てた母の節くれ手

斎藤照雄

【選　評】　五月の第二日曜日は、母の日である。第二次大戦後にアメリカに倣ったものだが、母の愛情と労苦に感謝したい。下句にある節くれ手に、子育ての労苦が偲ばれる。幾つになっても母は愛おしい。

《地位》
年老いた背中追いかけ代掻きす

長沼蓮花

【選　評】　田んぼの世話を先輩に倣う。農業従事者の高齢化は知られるところだが、蓮花さんのように共に農作業する人は貴重な存在。中七の措辞から、手慣れた人を追う姿も頼もしい。

《人位》
愛犬に春が来たよとお供させ

千両

【選　評】　家族の一人のような愛犬。暖かくなった日々に「春だよ」と語りかける。散歩の足も軽やかに、暮らしの喜びを十七音字に残すのも可である。

◇佳　作◇

暖かな無音の風にマスクとり
雪解けて春待つ姿花粉症　　千　両

春嬉し背伸びタラの芽天ぷらに
全開に手足伸ばして桜咲く
黙食を破る大谷ホームラン
打って投げはっと作りも二刀流　　千　歩

知らぬ道不安片手に気づき得る　　大平尚拓

散歩より摘みきし梅花香りたり
介護員とトンチ話で花が咲く　　今野モトイ

満面の笑顔はじけるピクニック
再会に口元ゆるむマスク越し
迷いある気持ちも白黒つけたがり　　長沼蓮花

綿入れにどっさり母の真心が
父の背と母の懐ほっかほか
無菌旗なびかせ故郷へ凱旋す　　斎藤照雄

【観察日記】

「燕が飛び立つ日①」

遊佐三枝子

毎年同じ場所に巣を作る燕が、今年も新生園を訪れた。

出入口の自動ドアを手動に切り替えても、優しいスタッフさん達は文句を言うことなく使用を控え、遠回りして、時折様子を窺いながら燕の成長を温かく見守っている。

燕が巣を作り始めてから、凡そ一月余りになろうかという頃、いよいよ卵を温めている姿が見られるようになった。じっとただひたすらに卵を温めている親鳥の姿は、とても切ない。何故なら卵が孵って、それで終わりではないからだ。

寧ろ孵ってからのほうが大変かもしれない。鳥の雛は一羽ではない。口を開けて待つ雛に代わる代わる餌を運び続けなければいけないうえに、少し成長すれば雛たちはじっとはしていない。雛同士で押し合い、巣から落ちたり、声を聞きつけた烏や蛇などの外敵からも身を守る必要がある。燕の親鳥は一瞬たりとも心休まらないのだ。

どうか今年もまた無事に雛が孵り、元気な鳴き声を聞かせてほしいものですね。

令和5年5月20日

各センター協同作品

各居室の入口に飾られた鯉のぼり

二刀流で活躍している大谷翔平選手に習って、私達スタッフも看護・介護の二刀流で、入所者様の生活をサポートしていきたいとの想いを表現しました。（製作者からのコメント）

うちゃこちゃんと師長さん

園内では手作りの藤の花や菖蒲が満開

転勤のご挨拶

副総看護師長　三　城　則　子

この度、国立病院機構あきた病院より赴任して参りました三城則子と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

出身は、隣りの市の栗原市です。高校卒業以来、約四十年ぶりに地元に帰り、仕事が出来る事に感謝しています。

私は看護学校卒業後、循環器専門病院、仙台赤十字病院に勤務し、十五年前に国立病院機構西多賀病院に（現在の仙台西多賀病院）就職し、この度の転勤を経て現在に至ります。国立療養所東北新生園の副総看護師長として赴任するということに、責任の重さを再認識し〝私に務まるだろうか〟と不安な気持ちと、せっかく与えられた機会なので成長するチャンスと据え、わくわくもしております。

今はまだ環境に慣れることに必死ですが、少しずつ「出来ること」、「やるべき事」を心にとめ、役割を果たしていきたいと思っています。着任して一ヶ月あまり、職員の皆様をはじめ、自治会長、入所者の方々の温かい言葉に、不安や緊張もやわらぎ、「今日も頑張ろう」という気持ちで仕事に臨むことが出来感謝しております。

少し私の趣味について話をさせていただきます。実家が農業もしていたので、土いじりが好きで週末は父と一緒に畑仕事をしています。先日、畑を耕しトウモロコシの種を植えてきました。他に陶芸を少し習っています。うまくは作れませんが、集中できるので、よい気分転換になっています。体を動かすことも好きで、特に球技は得意です。学生時代は

バレーボール部でした。今は父のグランドゴルフの相手をしています。

今回、東北新生園での勤務を命ぜられ、入所者の皆様の思いに耳を傾け、優しく、丁寧に、心を込めて看護・介護を行なっていきたいと強く思っています。ハンセン病の歴史を学び、入所者の方々の生活がより安心できるものになるように、努力を惜しまず、精一杯頑張りますので、末永く宜しくお願いいたします。

着任のご挨拶

看護師長　手　塚　泰　子

このたび第一病棟看護師長として着任いたしました手塚泰子と申します。よろしくお願いいたします。年齢がばれそうですが、私は当時国立仙台病院（現仙台医療センター）の中央手術室勤務が看護師のスタートで、以降三施設を転勤したうち二施設で手術室勤務と残る一施設でも手術に携わる部署に配属となりました。実に勤務年数の2／3を手術室で過ごした手術と深い縁がある看護師人生です。仙台医療センター時代に新生園の入所者さんの眼科手術介助をしたこともありました。手術前後であまりたくさんお話はできませんでしたが、その方の慎み深く柔らかなお人柄に触れたことを今でもはっきりと思い出すことができます。こうして今また私の看護師人生と新生園とのご縁が結ばれたことを大変光栄に思います。入所者さんとスタッフのために、新生園のために、自分に何ができるだろうと自問自答しつつも、目の前の課題を必死に対応していく毎日を過ごしております。

そのような毎日の中でやはりつくづく感じるのが、「私は人に恵まれているなあ。」ということです。先にもお話ししましたが、看護師として長く勤務しているものの、臨床経験が乏しい私です。ハンセン病施設での勤務は私の希望ではありましたが、果たしてちゃんと務まるか、無謀な希望だったのではないか、など頭の中でぐるぐるとしていた最中に、横田隆園長より「半年経つ頃には必ず〝来て良かった〟と思える職場です。みんなで一緒に働きましょう。」とのお言葉があ

り、また楓会会長より「長くいてくださいね。」とお声をかけていただきました。固まっていた気持ちがほぐれ「本当に新生園に来て良かった。自分のできることを少しずつでも積み重ねていこう。」と思いました。

また、佐藤総看護師長からも「看護の基本は何ら変わることはありません。入所者さんを中心に看護の専門性を発揮していきましょう。」との言葉をいただき、看護の原点は揺らぐことがないものだと確信いたしました。

その後も、入室中の入所者様、第一病棟スタッフの皆さん、看護師長さん方や看護課以外の部署の方々からもいろんなことを教えていただき、日々皆さんに感謝の一言しかございません。いつか必ずお役に立てる日が来ることを信じて、日々努力していきたいと思います。

私自身のことを少しお話ししたいと思います。仙台市在住の私は毎日自家用車で通勤しています。高速道路で一時間ちょっとと自分としては普通の通勤時間なのですが、普通と思うには訳があります。前職の山形病院にも自家用車で通勤しておりました。ご存じの方も多いかと思いますが、山形自動車道は何せカーブが多く最初は80㎞／hで走行できる気がしませんでした。そして、笹谷峠での天候の激変。宮城側は晴れていても、山形側は霧・雨・雪と、さながら川端康成の雪国を体感することもしばしばでした。特に、運転センスのない私にとって雪道運転は大変でした。吹きすさぶ雪のすごさ、ホワイトアウトに怯えながらソロソロと前の車について運転していたら、前の車が路肩に止まり自分が先頭になってしまった時には恐怖のあまり大笑いしてしまいました。

そして、雪道も怖いのですが、もっと怖いのはアイスバーンでした。慣れているはずの

山形ドライバーの車が中央分離帯に乗り上げているのを目の当たりにし、「私は生きて帰れるだろうか。」と何度思ったことか。一度信号で止まろうとブレーキをかけたところ、なかなか止まらずサイドブレーキをかけてやっと止められたことがあり、その恐怖体験以降、冬の車間距離が通常の五倍になったことはいうまでもありません。

新生園の、登米市の冬はどんなでしょうか。新緑のまぶしいこの美しい季節の田園里山風景に心を和ませながらも、ほんのすこし冬の通勤だけが心配な私です。

こんな私ですが、これからもよろしくお願いいたします。

着任のご挨拶

看護師長　森　美保

この度、仙台医療センター附属仙台看護助産学校から参りました森美保と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

私は、宮城県名取市の出身です。仙台市の高等学校に通い、仙台医療センター附属仙台看護助産学校に進学しました。卒業後は仙台医療センターに就職し、消化器内科病棟と手術室に九年間勤務いたしました。その後、看護教員養成課程を経て、仙台医療センター附属仙台看護助産学校に看護教員として十五年間勤務いたしました。長い間看護基礎教育に携わってきましたので、国立療養所東北新生園に転任となり、はじめは不安と緊張で一杯でした。しかし、職員と入所者の皆様から温かいお声がけをいただき、少しずつ慣れてきたように感じております。

以前勤務していました仙台医療センター附属仙台看護助産学校では、老年看護学領域を担当し、看護学生とともに学ぶという日々を送っていました。講義や実習指導をとおして学生の成長を感じながら勤務することができ、充実した日々を過ごすことができました。私は第一メープルケアセンター一階に勤務しております。こちらのセンターでは、さまざまな職種が入所者の皆様の生活を支援させていただいております。入所者の皆様のよりよい生活を守るため、それぞれの専門性を活かして連携・協働を実践しております。私も多職種の方々から学ぶことが多くあり、多職種連携・実践の必要性を感じております。教育背景や専門性は違っても、入所者の皆様に安心で安全な生活を提供するという目標は

同じですので、今後も連携を図っていければと思っております。

こちらのセンターに配属となってまだ間もないのですが、入所者の皆様とお話をさせていただく中で、こちらが支援をしているのではなく、自分自身が救われていると思うことが多々あります。入所者の皆様の笑顔から、日々元気をいただいているからだと思います。センターでは、毎日看護の原点を学ばせていただいております。

私は老年看護学をこれまで学んできましたが「老いは獲得でもある」と思っております。老いるということは、失うものも確かにありますが、知識や経験など老いるからこそ獲得できるものもたくさんあると思っております。入所者の皆様のもてる力や強みを引き出し、生活を豊かにできるようなかかわりを目指して、自分が何をすべきか役割を考えながら日々精進して参りたいと思っております。

不慣れで至らないことが多く、ご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、ご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

着任のご挨拶

一般職員　鈴木智也

令和五年度より、宮城県仙台市にある東北厚生局から出向で参りました鈴木智也と申します。どうぞよろしくお願い致します。令和三年度より東北厚生局で採用となり、二年間勤務した後、東北新生園に参りました。東北厚生局では医療課での業務や、総務課での経理業務を経験してきました。

出身は山形県の上山市です。上山市は県庁所在地である山形市の南に位置する街です。遊園地であるリナワールドがあり子供連れの方も楽しめる一方で、上山城や武家屋敷などの歴史的建造物も多数あります。そして、歌人である斎藤茂吉の生まれた地でもあります。斎藤茂吉というと短歌で有名ですが、そのようなこともあってか、私の出身の小学校では国語の授業の一環で短歌の作成があり、出来事や気持ちを五・七・五・七・七という決まった形式で表現し発表した思い出があります。

また、上山市には豊かな自然もあります。標高約一〇〇〇メートルに位置する蔵王高原坊平では、夏場はキャンプやウォーキング、ランニングが出来ます。坊平にあるウォーキングコースは日本初のドイツミュンヒェン大学シュー教授認定の気候性地形療法の専門コースとなっており、健康増進におすすめです。トレーニングに適した東日本初の常設芝クロスカントリーコースもあり、毎年大会が開かれたり、箱根駅伝出場の選手が練習に来たりします。冬場にはスキー場となり、スキーやスノーボードといったウィンタースポーツが楽しめます。このような自然豊かな

上山市は果樹の一大産地でもあり、さくらんぼやラ・フランス、ぶどう、干し柿などが作られています。果樹園が販売するこれらの果物を使ったパフェであったり、ぶどうを使って作られたワインは絶品です。

私はこの上山市で幼稚園、小・中学校と過ごした後、上山市から山形市の高校・大学へと通いました。中学校ではソフトテニス部に所属していましたが、駅伝チームにも入っていて、その流れで高校では陸上部に入部しました。高校では五〇〇〇メートル走や競歩、駅伝を主にやっておりました。長期休暇の時には蔵王や福島、岩手などでの泊まりの合宿があり、記録を伸ばすために連日走り込んだのは辛くも今となっては良い思い出です。

陸上をやっていたこともあり、私の趣味のひとつはランニングをすることです。現役の時のように走ることはできないですが、最近でも週末に三十分程度走っています。前の職場の時には、職場の希望者十人程度でチームを組み、仙台リレーマラソンに参加したりもしました。個人競技では十キロ超えの大会に出たことがないので、今後ハーフマラソンやフルマラソンにも出たいと思っています。一方で陸上の大会を観戦することも好きです。特に全国高校駅伝や、大学三大駅伝と言われる出雲駅伝、全日本駅伝、箱根駅伝は毎年欠かさずテレビで観ています。

大学時代は特にサークル活動はしていませんでしたが、自転車に乗ることにはまり、クロスバイクで上山市から山形市にある大学まで通学したりもしました。地元上山市で開催されたツール・ド・ラ・フランスという自転車の大会に参加したこともあります。参加した時はちょうど東北中央道の開通の時期であり、高速道路を自転車で走ることができたため、貴重な体験をしました。大学卒業後赴任した仙台市では乗る機会がなく、二年間乗ってい

ませんでしたが、今回の転任に伴い、以前使っていたクロスバイクを持ってきました。時間がある時にツーリングを楽しみたいです。

東北新生園では主に給与業務を担当することになります。未熟な点も多いですが、自己研鑽を重ね、日々成長できるよう努めて参ります。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

離任式

令和5年3月31日

今回は14名の方が退職されました。長い間、大変お疲れ様でした。
これからもお身体を大切にお過ごしください。

四コマまんが

作・太田凛

達人①
俺は達人だから
走っている車を脚一本で止めるぜ
ブォー
どりゃー!!
キキーッ
達人②・③
オレなんか
腕一本で止めるぜ
ヘイタクシー
TAXI
わしは指一本じゃ
やー